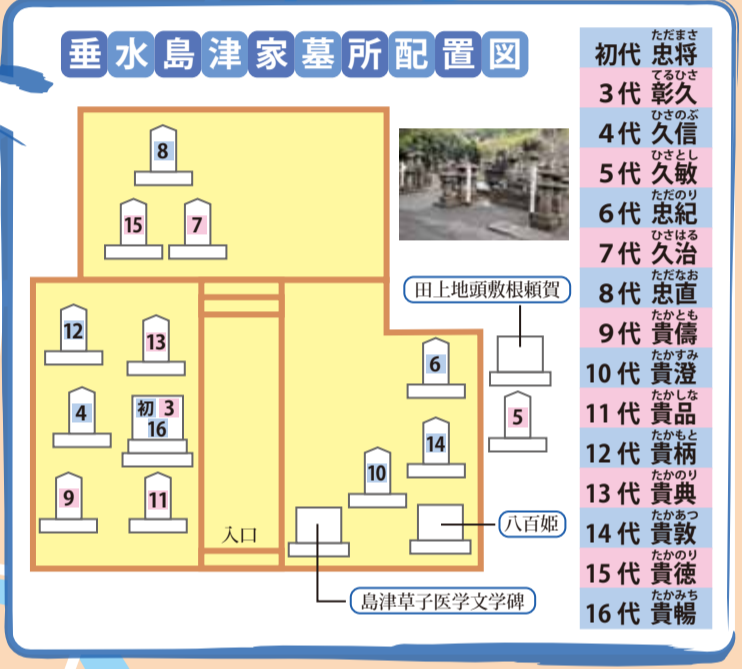


たるみず 歴史散歩



垂水地区に伝わる民話もあります！

- ・オチンドン川の話
- ・戸棚を開ける猫の話
- ・市木川の水の溜る話
- ・浜平尾追の伝説
- ・湊のまくりの話



垂水地区歴史めぐりモデルコース

- ### ショートコース
- 垂水島津家 ゆかりの地コース** 【目安時間：1時間～】
(荒崎パーキングに駐車)
- 1 垂水城跡
 - 8 垂水島津家墓所
 - 5 6 林之城跡・お長屋
 - 7 御殿加神社
 - 文化会館 (歴史資料)
- 徒歩でのんびりコース** 【目安時間：1時間～】
- たるみずスポーツランド (入口)
 - 11 12 鹿児島神社・戦没者慰霊碑
 - 10 和田英作使用の画室
 - 瀬戸口藤吉翁誕生地
 - 3 第六垂水丸 遭難者慰霊碑

- ### メインコース
- 【目安時間：2時間～】
- 1 垂水城跡 (荒崎パーキングに駐車)
 - 2 宝塔
 - 3 第六垂水丸遭難者慰霊碑
 - 8 垂水島津家墓所
 - 7 御殿加神社
 - 5 6 林之城跡・お長屋
 - 10 和田英作使用の画室
 - 13 瀬戸口藤吉翁顕彰碑・文化会館 (歴史資料)
 - 11 12 鹿児島神社・戦没者慰霊碑
 - 14 近衛信輔(信尹)公の歌碑
 - 15 俣江観音堂

16 田の神

(2号原田、3号田神、4号田上、5号市木)

田の神は稲作をつかさどる神で、古代には食飯魂命(うがたのみこと)といわれていたと考えられています。春になると里に下りて田の神となり、秋の取入れが終わると山に帰ると信じられていました。

17 垂水人形

鹿児島県伝統的工芸品指定

文禄・慶長の役(1592~1598年)のときに、島津義弘が伴い帰った陶工たちが制作したのが薩摩焼と土人形で、垂水では元禄(1688~1704)頃から作られていたと言われています。江戸期には武士の内職として、娘、花嫁、福神などの人形が作られました。やがて冬場農家の副業になり、大正初め頃には20件の制作者があり、1年に800個も作られたそうです。昭和10年(1935)頃から一時制作は途絶えましたが、帖佐人形や残っている垂水人形の原型を参考に、中島信夫氏らによって平成元年(1989)に復活しました。

1 9 は現存しません 情景をお楽しみください。

P 駐車場
T トイレ
H ホテル・旅館

鹿児島県指定文化財
垂水市指定文化財

1 垂水城(荒崎城)跡



保安元年(1120)宇佐八幡宮から下って来た藤原上総介舜清が最初の城主といわれています。慶長16年(1611)垂水島津家四代久信が林之城を築城し、居城を移した後は廃城となりました。城の崖下からは清水が湧き出し、岩層から滴る水の様子から垂水という地名がおこったともいわれています。

2 宝塔



市指定文化財

天文13年(1544)、伊地知重武が垂水を平定した際に月海寺を建立し、この塔を立てたと推定されています。各石面には、富と長寿の願いがかなったことを表す梵字が刻まれていましたが、塔身は風化して文字等は消えています。

3 第六垂水丸遭難者慰霊碑



昭和19年(1944)2月6日9時50分、出航した第六垂水丸が港の約200m沖で方向転換する際にバランスを崩し転覆しました。大隅各地から戦地へ出征する兵士との面会者等、定員超過の約700名が乗船しており、死者行方不明者あわせて537名という日本海難事故史上2番目の規模の事故となりました。

4 学問所「文行館」跡



藩政時代、垂水は学問が大変盛んで、垂水島津家十代貴澄は安永5年(1776)、学問所「文行館」を創設しました。安永2年(1773)に創立された藩校「造士館」に次いで、郷校としては藩内で一番目の創立でした。文行館は明治まで続き、多くの人材を輩出しました。

5 林之城跡



垂水城が手狭になったため、四代久信は慶長16年に林之城を築城しました。当時このあたりは山林原野が広がっていたことから、「林之城」と呼ばれたと言われています。1615年、幕府の一国一城令により鹿児島では鶴丸城のみが城と呼ばれることになり、林之城は「館」、「お仮屋」と呼ばれるようになりました。

6 お長屋



林之城の関連施設として建てられたもので、細長い形状からお長屋と呼ばれます。江戸初期に建造された「多聞櫓」と呼ばれる構造を持ち、県内では他に類例がない建造物です。当初は侍詰所(下級武士の詰所)だったと言われています。兵具蔵としても使われ、明治9年(1875)には「私学校垂水分教場」として剣術・漢学が教授されました。その後小学校の校舎や役場仮庁舎等としても使用されました。もともとは正門を挟んで2つあったものが、太平洋戦争で1つ焼失してしまいました。現存しているお長屋は、400年以上の歴史を持つ貴重な建物で、石垣や柱等は当時のまま、垂水小学校の校門脇に保存されています。

県指定文化財 市指定文化財

7 御殿加神社



垂水島津家初代忠将を祀った社で、永禄8年(1565)に二代以久が国分の清水に建立し、寛永2年(1625)に四代久信が市木の垂水城天下比良に勧請しました。この天下比良の地名から天下大明神と呼ばれ、後に殿下、さらに殿加と転じたと言われています。後に現在の場所に移し、垂水島津家代々の氏神として崇められてきました。現在の社殿は、昭和60年(1985)に鳥居と共に境内に建てられました。

8 垂水島津家墓所



垂水島津家は、一門家(加治木・重富・垂水・今和泉)のうちでも最高位の家柄とも言われます。初代忠将から十六代貴暢まで続き、約260年間垂水を治めました。垂水島津家墓所は、菩提寺であった曹洞宗心翁寺の一部で、歴代領主(佐土原初代藩主に移封した二代以久を除く)や一族の墓碑群が並び、大変貴重な史跡です。また、領主の墓石としては珍しく夫婦の墓塔が並立しており、巨大な六地藏塔(供養塔)が数多くあるのが特徴です。

市指定文化財

9 田上城跡



伊地知氏三代季豊が築城し、梶原氏が居城としたと言われています。梶原氏は伊地知氏と姻戚関係結び勢力の維持を図りますが、天文13年(1544)に伊地知氏に田上城を奪われました。その後伊地知氏は島津氏に敗れ、田上地頭に敷根氏が任せられましたが、慶長4年(1599)島津以久が垂水領主となり垂水城を居城としたため、田上城は以後廃城となりました。

10 和田英作使用の画室



和田英作は垂水出身の近代洋画家で、曾山幸彦や黒田清隆らについて学び、その後パリへ留学、母校の東京美術学校教授、後に校長に任せられました。「渡頭の夕暮」「ばら」等多くの名画を残し、勲四等瑞宝章、文化勲章、勲一等瑞宝章大綬を受章。黒田清輝、藤島武二とともに日本洋画壇の三先達といわれています。

11 鹿児島神社(下宮神社)



大昔、手貫大明神と神貴大明神との争いがあり、開聞九社からの加勢により神貴大明神は新城へ移りました。その後、手貫大明神は水之上に、開聞九社からの加勢はこの地に鎮座し、手貫神社を上之宮、鹿児島神社を下之宮とも呼ぶようになりました。昭和20年(1945)8月5日の垂水空襲で全焼しましたが、住民の努力で再建されました。

12 戦没者慰霊碑



鹿児島神社の境内に、向かって左から招魂碑(西南の役)、忠魂碑(日清戦争)、招魂碑(日露戦争)の慰霊碑が並んでいます。西南の役では、垂水から450名参加、85名が戦死しました。この碑の側面及び背面には町田貢ほか戦死者名が刻まれています。日清戦争は陸海軍併せて7名、日露戦争では23名の垂水出身者が戦死しています。

13 瀬戸口藤吉翁顕彰碑



瀬戸口藤吉は行進曲の父といわれ、明治15年(1882)横須賀の海軍軍楽隊に入隊、「軍艦の歌」を作曲しました。明治32年(1900)行進曲に編曲した「軍艦行進曲」(軍艦マーチ)は世界三大行進曲の一つに数えられ、退官後作曲した「愛国行進曲」は、レコード百万枚の売上を記録しました。

14 近衛信輔(信尹)公の歌碑



近衛信輔は安土桃山時代の公家。書道にも優れ、寛永の三筆の一人に数えられています。文禄3年(1594)後陽成天皇から咎めを受け坊津に配流される途中、海渦に10日間逗留し、このとき詠んだ歌が歌碑に刻まれた「島が富士ここが清見の寺ならばすさきの方は三保の松原」と言われ、洲崎をとおして見る桜島は、三保の松原をとおして富士山を眺めるようだと言っています。

15 俣江観音堂



天正17年(1589)に造られたと考えられています。垂水市史には、昔から安産の仏様として信仰され仏像の首に小さなよだれかけがかけられているとあります。木質はタブの木と思われ、作者は不明ですが立派な作りです。平成8年には御堂が建立され、地域の人々によって保護されています。

参考・引用文献

- 垂水市教育委員会
 - 1998「垂水市史(上)改訂版」,1977年「垂水市史(下)」
 - 1980「垂水市史料集(二)垂城伝誌・他4」
 - 1982「垂水市史料集(四)石塔編」
 - 1984「垂水市史料集(五)垂水市の文化財」
 - 1995「垂水市史料集(十三)戦後五十年戦争体験記」
- 白井忠功 1987「近衛信尹の旅—『三藐院記』と『信尹坊津紀行記別記』—」『立正大学文学部 研究紀要第3号』
- 中島信夫 2005「ふるさとの歴史(垂水市垂水編)改訂版」

【発行】鹿児島県垂水市旭町6-1番地2
垂水地区公民館
TEL 0994-32-4599